

1月号

慈進

～地域や人を想い、志を全うする～

JCI  TM

一般社団法人 西大寺青年会議所 広報誌
Junior Chamber International Saidaiji (Japan)

2018年度

基本 理念

～周囲への感謝の気持ちを持って、
自らを信じ挑戦と成長を志す～

基本 方針

- ・ 地域と協働し生きる力を伸ばす青少年育成
- ・ 地域の可能性を最大限に活かすまちづくり
- ・ 慈しむ心と会員の成長に基づくブランド力の向上と会員拡大



2018年度 第58代理事長
柴田 潤哉

【はじめに】

私たち一般社団法人西大寺青年会議所は本年度58年目を迎えます。これまで57年の永きに亘り「明るい豊かな社会の実現」を目標とし、1年1年懸命なる運動により歴史を創り上げられてきた先輩諸賢に心より感謝申し上げると共に敬意を表します。本年度もこの歴史を礎とし58年目の歴史を創って参ります。

私が西大寺青年会議所への入会のお誘いを頂いた時に、真っ先に頭に浮かんだのが1994年、当時は西大寺青年会議所が主催していた第23回少年はだか祭りにて宝筒を取得し、親族や友人、学校の先生、すれ違う見知らぬ人と多くの方々から祝福を頂いたことでした。特に大きく周囲の人より秀でたことを持っていなかった私には、生まれて初めて自分の行動で多くの周囲の人に喜んで頂く「本当の喜び」を実感した機会となりました。入会の決め手となったのはこの時に祝福してくれた地域への感謝の気持ちと恩返しの気持ちです。入会以来、多くの人や地域に関わることでこの気持ちは次第に大きくなり、多くの壁にぶつかりながらも、自分ならきっと地域社会に貢献できると信じて他のメンバーと共に成長し、今日まで青年会議所運動に邁進してきました。

本年度スローガンを「 慈進 ～地域や人を想い、志を全うする～」と掲げさせていただきます。見慣れない文字ではありますが「慈」には慈しむということ、「進」には成長し前進するという意味

を込めました。日本人は古来より「おもてなし」や「もったいない」を代表とした、世界からも称賛を得ている「物事を敬い大切にすること」という精神文化を持っております。地域のことを、地域に関わる人や自分の周りの人を心から大切に想い、青年経済人として様々なことに挑戦し成長する。明るい豊かな社会の実現に向けて周囲への感謝の気持ちを慈しむ心に変え、自らを信じながら挑戦と成長を志すことで1年の歩みを進めていきます。

【地域と協働し生きる力を伸ばす青少年育成】

近年の日本の青少年育成、そして学校教育を考えると大きな転換期が2つあります。1つ目は1980年度から「ゆとり教育」が教育方針となり、段階を追って学校での学習時間を減らし、子どもにもゆとりある充実した生活を送ることを目的としたこと。2つ目は「脱ゆとり教育」として、社会が変化しようとして自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断し、行動し、問題を解決する資質や能力である「生きる力」を養うための学習へと移行したことです。

本年2018年は3つ目の転換期が訪れました。今までどこか曖昧で重要度の高くなかった道徳という科目が「特別な教科」として正規の教科に組み入れられます。このことから青少年育成における「生きる力」への重要度は益々高まるでしょう。

こうした学習環境の中で近年、青少年育成において地域の果たす役割は非常に大きくなっています。教育現場や行政は教科書に活字で書かれていない、個人のアイデンティティーにも関わる地域の伝統文化や歴史といった知識や、核家族化、地域コミュニティの希薄化、通信手段の発達などにより問題が生じたコミュニケーションの取り方といった「生きる力」の学びを子どもの身近にある地域と協働する教育に求めています。

我々は本年度、少年はだか祭り実行委員会の一員として運営する第47回少年はだか祭りを代表とした青少年育成事業において、子ども達に地域の伝統文化や歴史を伝え、地域の魅力について考えてもらう機会を提供します。また、子ども達がこれを題材として近所の人や親族などとしてしっかり話を頂くことで、人と人が顔や心を合わせることでしか伝わらない温かみのあるコミュニケーションの機会を創っていきます。行政や教育現場、他の地域諸団体や地域市民の皆様と青少年育成について一緒に考えて、より深い連携をとることで、地域を巻き込んだ能動的な青少年育成の実現を目指します。

郷土に大きな誇りを持ち「生きる力」を持って成長した彼らは、必ずや郷土を慈しみ、伝統文化を継承して次世代の社会を創ってくれます。我々はその未来を心から信じて運動を展開致します。

【地域の可能性を最大限に活かすまちづくり】

地域の魅力とはどういったもののでしょうか。山、川や海といった自然環境とそこから得られる特産物。固有の歴史文化を持つ史跡や、伝統的な祭りなど様々なものが考えられます。

これに我々の運動エリアである岡山市東区や瀬戸内市を当てはめてみると岡山市東区には始まりを751年とする金陵山西大寺があり、2016年3月に国指定重要無形民俗文化財にも指定された伝統のお祭り「西大寺会陽」があります。また瀬戸内市に目を向けると13世紀頃より栄え、刀剣や福岡の市で全国的に有名な長船があり、そして「朝鮮通信使」で有名な牛窓は古来より港町として栄えた歴史ある町です。

地域の特産物としては温暖な気候と吉井川の豊富な水を活かした、葡萄や苺、スイカといった多種多様なフルーツや、白菜やキャベツなどの野菜の栽培。そして牡蠣の養殖を代表とする豊富な魚介類を活かした漁業があります。

これほど歴史もあり、恵まれた環境を持つ、いわゆる資源に恵まれた地域ではありますが、観光客数の推移は横ばいでそれぞれの中心部を除くと少子高齢化や過疎化も急速に進んでいます。

職人は素晴らしい原材料や素晴らしい素材を見たときにどういう風に活かすか特性を考え様々なものを作り出します。営業職の人は新しい商材を見たときにどういった人に需要があり、どうすれば受け入れてもらえるかを考えるはずですが。青年会議所のメンバーも同じではないでしょうか。前述したような素晴らしい資源はもう目の前にたくさんあります。

地域活性化事業では自分たちが創意工夫し腕に縫いをかけて発信した地域の魅力を、来て頂いた人に見て、聞いて、香りを感じて、触ってそして味わってもらい、素晴らしいものを五感で体験的に感じて頂くことで、その記憶や印象を残していきます。1人1人の体に宿る記憶や印象は小さな湧き水となり、人と人の繋がりによりやがて小川となり、未来には大河となることで地域ブランドとして広がっていくでしょう。

また西大寺市民大学では地域の魅力を改めて深掘りすることにより、そこに住む人たちに地域の魅力を再発見して頂けるよう事業を展開致します。「故郷の紹介」と問われて特産品や祭りを紹介できる人は多くいますが「故郷の自慢」と問われて詳しく説明できる人は

あまりいいでしょう。自分のルーツやアイデンティティーは故郷から外に出たときに、またその地域以外の人と話をするとき自分の誇りとなり、素晴らしいコミュニケーションツールとなります。地域に住む人1人1人が広告塔となり、仕事先の人や遠くの友人に地元を誇らしげに自慢する。熱意をもって話をされたらその土地を訪れてみたいと思いませんか。

本年度その様な地域の可能性を最大限に活かし、地域を慈しみ発展させることで未来に繋がるまちづくりを、地域の皆様と共に展開していきます。

【慈しむ心と会員の成長に基づくブランド力の向上と会員拡大】

現在、全国の青年会議所会員数は約36,000人となり、ピーク時である1988年の約67,000人の約53%となりました。要因として経済状況の悪化や企業数や人口の長期的な減少傾向といったことが考えられますが、これは青年会議所のみならず他の地域、経済団体などでもみられる傾向にあります。然し乍ら、会員の減少という問題を本当に社会情勢だけに起因するものとしてよいのでしょうか。

会員の拡大運動の理想は、拡大運動をしなくても青年会議所がブランドとなり地域の方々に共感して頂くことにより入会したい人が集まってくることです。情報化が進む社会の中で簡単に信憑性に欠ける情報が手に入り、全国的に見ても極僅かな心無い会員の行動により共感が広がりにくくなっているのも事実ではありますが、だからこそ誰もが入会したくなるような団体となるよう、まずはより一層の感謝と礼節を重んじ、日々の小さな心がけと行動を青年経済人として律していくことが必要であります。

そしてそんな礼節と感謝の心を持って周囲の人や地域を慈しみ、お互いが高い志を持ち切磋琢磨して成長している。切磋琢磨している会員同士は自ずと強固な信頼関係で結ばれていく。これこそが青年の学び舎である青年会議所のブランド力であります。勿論、会員の数が多いほど、このブランド力は飛躍的に大きくなり発信力も強まります。

我々は本年度、西大寺青年会議所のブランド力を高めるために、自分たちの青年会議所運動の意義と団体の存在意義を再確認致します。そして個々の青年経済人としてのスキルの向上と礼節などの人の内面性を向上させる研修や事業、多くの人とのコミュニケーションを通して、会員個々の人間力の成長を促します。また、このブランド力の発信を強化するために会員全員で拡大運動に取り組み1人でも多くの仲間と成長していきます。

西大寺青年会議所が学び舎となり多くの会員が志を持ち末永く地域社会の発展に貢献する。会員の成長と活躍が地域の方々の目に留まれば尊敬と共感が得られ、必ずや拡大運動も成功するでしょう。周囲への慈しみの心を持ち、我々自身が西大寺青年会議所のブランド力となるように限界を定めず挑戦と成長を繰り返します。

【結びに】

人に与えられた時間の長さは個々により大きく違いがありますが、時間の流れの早さは平等なものだと思います。貧富の差があろうと人種、性別、国籍が違おうと1時間は1時間であり、1日は1日です。違いを作るのはその平等に与えられた時間の流れの中で如何に多くの事を経験し、多くの事を得られるかです。

青年会議所は40歳で卒業を迎える団体であり、私も入会して5年という時間を過ごさせて頂きました。仕事に家族、青年会議所運動と時間の使い方に苦しみながらも周りの人に支えられ、嬉しいことや辛いこと、楽しいことや悲しいことを経験させて頂き、多くの人と出会う中で、それまで特に深く考えていなかった青少年の育成や地域のこと、自己の成長といった様々な面の価値観を大きく変えてくれました。この青年会議所という学び舎で過ごした5年間という時間は紛れもなく現在の自分のアイデンティティーを確立する濃厚な時間であったと思います。

人は何かを成し遂げる時、成長する時に必ず痛みや苦しみを伴います。それを乗り越えられるのは周囲への感謝の気持ちを慈しむ心に変え、自らを信じ様々なサポートを得て、挑戦と成長を繰り返しながら歩を進めるからです。我々の進むこの道は決して平坦ではありませんが、必ずや明るく豊かな社会を創ることへと繋がり、地域の未来を創ることとなります。2018年という人生で1度限りのかけがえのない1年を、共に素晴らしい時間にしていきましょう。



副理事長
木村 和明

2018年度、青少年育成委員会の担当副理事長を務めさせていただきます。木村和明と申します。1年間よろしくお願い申し上げます。本年度、柴田理事長をお支えるのは勿論のこと、理事長スローガンの「慈進 地域や人を想い、志を全うする」の下、当委員会は少年はだか祭りをはじめとする、郷土の伝統・文化を未来ある子ども達に伝えていくことを1年間

の目標に掲げて運動をおこなって参ります。また、私自身が過去に教わってきたことを、神宝委員長をはじめとする、青少年育成委員会メンバーに伝えることで、委員会を支えて行くことにも繋がりが、当委員会の担いでもあります「青少年の育成」に結び付けて行きたいと思ひます。

JC生活最後の年となりますが、今一度気を引き締め、「挑戦と成長を志して」1年間邁進して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



副理事長
藤原 辰徳

本年度は第58代になられます柴田潤哉理事長が掲げられました「慈進～地域や人を想い、志を全うする～」を旗印に一年間の運動を展開して参ります。この「慈」という文字には、いつくしむ。情けをかける。恵み深い。という意味に用いられ、語源は古く仏教用語の「友」や「親しきもの」を意味し、その本質は「真実の友情」「純粋の親愛」の念を意味している

ようです。副理事長という大役を仰せつかりましたが、自分の立ち位置を見失うことなく、「慈」の本質を追及して参る所存です。一年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。



副理事長
中西 秀和

2018年度副理事長を務めさせていただきます。中西秀和です。どうぞ1年間よろしくお願いいたします。

本年度は、私自身はJC生活の節目となります10年目を迎えます。昨年、監事という大役を務めさせていただきました。組織の縦でも横でもない少し外れた唯一の位置に構える役職から、西大寺青年会議所を俯瞰的に見ることで新たな学びを得る

ことができました。そして、本年度、組織の中心に戻り、一メンバーとして学んできたことをアウトプットするだけでなく、自分自身もまた新たに学んでいきたいと思ひます。

本年度は会員拡大を担いとしみずブランドマネジメント委員会を担当させていただきます。大きい事業は抱えていませんが、委員会メンバーとともに、1年間走り続け、大きな1年だったと言える1年間を作っていきます。

最後になりますが、敬愛する先輩諸兄ならびに現役メンバーの皆様におかれましては、一年間ご指導ご鞭撻、ご支援ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



専務理事
谷 政道

本年度、専務理事を仰せつかりました、谷 政道と申します。対内外的な面で西大寺青年会議所の屋台骨を支える気概で取組んで行く所存です。一年間、何卒よろしくお願い致します。

自分自身、青年会議所に入会して7年目となります。青年会議所の専務理事という役職を考えた際『より広い視野で物事を見る力』が必要となって来ると考えます。これは自分自身にとっては苦手分野であり、しっかりと嗅覚を働かせて運動に邁進していきたいと思ひます。

そして2018年度スローガンである『慈進』慈しんで進んで行く事を念頭に、地域や人を想い、この志を精一杯全う致したいと思ひます。



総務委員会 委員長
大植 裕一

新年あけましておめでとうございます。2018年度総務委員会委員長を仰せつかりました大植裕一です。西大寺青年会議所をしっかりと1年間下支えし、西大寺青年会議所のさらなる発展の為、邁進して参りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

本年度の3つの基本方針「地域と協働し生きる力を伸ばす青少年育成」「地域の可能性を最大限に活かす

まちづくり」「慈しむ心と会員の成長に基づくブランド力の向上と拡大」を柱とし、運動を展開して行き、実現させる為に総務委員会として積極的に出来る事を追求し1年間全力でLOMをサポートして参りますのでよろしくお願いいたします。



青少年育成委員会
委員長
神宝 貴章

新年あけましておめでとうございます。本年度、青少年育成委員会の委員長を務めさせていただきます、神宝貴章と申します。1年間よろしくお願いいたします。

入会4年目で初めての委員長で正直不安な部分も多々ありますが、本年度理事長のスローガンにもありますように『慈進』を持って一年間頑張る参ります。

西大寺青年会議所最大の事業の一つでもあります、第47回少年はだか祭りを団体、地域を代表して活躍している方々に協力して頂きながら西大寺の文化や歴史を継承し創り上げていきます。

そして各事業を委員会メンバーと共に一生懸命取り組んでいき、一年後自分も含めメンバー全員がレベルアップできるように頑張る参りますので一年間どうぞよろしくお願いいたします。



ブロック野球準備室
室長
國本 秀範

来年の準備室に向けて道筋をしっかり立てたいと思います。そして、近年は初戦で負けているので地区大会に出場できる様に野球部を応援したいと思います。



総務委員会 副委員長
田淵 裕賀子

本年度、総務委員会の副委員長を務めさせていただきます、田淵裕賀子です。本年は副委員長であると同時に役員としての担いもあるので、しっかり勉強していくと共に、1年間、大植委員長を支えて行きたいと思います。1年間どうぞよろしくお願いいたします。



地域の魅力発信委員会
委員長
尾田 英俊

2018年度、地域の魅力発信委員会委員長を務めさせていただきます尾田英俊と申します。当委員会は、事業を通じてこの岡山市東区西大寺・瀬戸内市の伝統・歴史・特産物といった魅力を多くの方々に発信し、地域の活性化につなげます。委員会全員の力で1年間邁進して参りますので、よろしくお願いいたします。



ブランドマネジメント委員会
委員長
阿部 哲也

明けましておめでとうございます。ブランドマネジメント委員会の委員長として一年間運動を邁進してまいります、阿部哲也と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、まずはブランドマネジメントという委員会名の由来について触れさせていただきます。ブランドとは、他を慈しみ、自己成長のために切磋琢磨することにより生まれる会員の人間力です。私たちの委員会は、その

人間力を高め続けるために、礼節やコミュニケーション能力等の様々な研修を通じ、マネジメントしてまいります。

委員会の最大の使命は、会員の拡大です。定期的にブランド力を、会員候補者に触れていただける機会を提供することが、拡大成功に繋がる一番の近道だと考えます。本年度の拡大目標は12名です。必達に向けて、拡大運動を先導してまいります所存です。

この先会員が減少し続ければ近い将来、西大寺青年会議所の未来はありません。今日まで先輩方が築き上げられた歴史を守るため、そして、明るい豊かなブルーエリア実現のために、今こそ行動を推し進める時です。ブランドマネジメント委員会の長として、拡大・研修担当の長として、やるべきことをやります。

タイトル 1月例会



また、誕生日や出産を全メンバーで祝福する場面もあり、緊張感のある中で和やかな場面もありました。

委員会アワーでは、本年度新たに委員長所信を発表する機会を設け、それに対して、委員会メンバーがどのように1年間頑張っていくのかを発表しました。メンバー一人ひとりが委員会アワーの趣旨をよく理解して臨み、素晴らしい時間を共有することができました。メンバー同士の結束力がさらに強固なものとなったと感じました。

いよいよこの1月例会を皮切りに、2018年度が本格的にスタートします。西大寺JCメンバー一同、まちのために日々精進してまいりますので、1年間どうぞよろしくお願いたします。

ブランドマネジメント委員会 委員長
阿部 哲也

1月10日(水)、1月例会が岡山商工会議所西大寺支所にて開催されました。

理事長挨拶では、本年度スローガン「慈進」～地域や人を想い、志を全うする～に対する思いをメンバーに向けてお話されました。「慈進」には、自らを信じるという意味の自信の意味も込めている。そして一番伝えたいことは、周囲への感謝の気持ちを持ってみんなで常に上を向いて成長して行こう!と、力強くご挨拶され、メンバーの士気が高まりました。



タイトル 新年祝賀会

ブランドマネジメント委員会 委員長
阿部 哲也

1月12日(金)、(一社)西大寺青年会議所 2018年度 新年祝賀会が、多くのご来賓や特別会員の諸先輩方をお招きし、西大寺グランドホテルにて盛大に開催されました。本年度初めての対外事業ということで、メンバー一同、団結して準備を進めてまいりました。

冒頭、第58代理事長 柴田潤哉君より、所信や本年度西大寺青年会議所の方針を盛り込んだ力強い挨拶から始まりました。そして、新役員の紹介、新会員紹介と続き、委員会別年間事業概要の発表が本年度新たな試みとして行われました。緊張感漂う中で、4名の委員長による映像を交えた発表が堂々で行われ、ご出席いただいた皆様に、今後の西大寺青年会議所の事業に対するご理解ご協力をお願いしました。また、新会員とは思え



ない川野友也君による堂々とした司会も盛会の一助となりました。

2018年度スローガン「慈進」を胸に、1年間運動を展開してまいる所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。





総務委員会 委員長
大植 裕一



1月19日（金）から1月21日（日）にかけて本年度も京都会議に参加して参りました。

19日（金）は中国地区協議会会員会議所会議並びに門前まち青年会議所連盟総会が御座いました。また20日（土）は第156回目となる総会、各種セミナーに参加させて頂きました。本年度も全国各地から多くのJCメンバーが参加しており、噂では聞いておりましたが想像していたよりも圧倒されるほどの人数でした。全国にこれだけ多くのJCメンバーがいる事を肌で体感する事が出来、改めて素晴らしい団体なのだなと再確認することが出来ました。



そして20日（土）の夜は西大寺JCメンバーと懇親会を行い普段よりも違う雰囲気の中でお酒を交わし、生涯忘れることのない素晴らしい思い出を作ることが出来ました。

さらに、最終日21日（日）の新年式典では、日本青年会議所第67代会頭 池田 祥護君が掲げる「和」の精神性が導く愛と希望溢れる国日本の創造にいて力強く演説されました。

今回はじめて京都会議に参加させて頂きましたが、多くの気付きや学びを体感出来ました。

この京都会議で得た学びや経験を糧に2018年を邁進して参りたいと思います。

